

第13期(平成30年3月期)
決算説明資料

平成30年6月8日



阪神高速道路株式会社

当期連結決算の概要

当社グループの当期の連結業績は、営業収益 **2,142億円**（前年同期比▲354億円）、営業利益 **17億円**（前年同期比+1億円）、経常利益 **19億円**（前年同期比+1億円）となりました。

また、特別利益として、厚生年金基金代行返上益を計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純利益は **57億円**（前年同期比+26億円）となりました。

事業別の業績等の概要は、次のとおりです。

高速道路事業

- ◆ 料金収入は1,861億円（前年同期比7.5%増）
- ◆ 道路資産完成高は203億円（前年同期比67.5%減）
- ◆ 道路資産賃借料は1,419億円（前年同期比9.0%増）
- ◆ 管理費用は441億円（前年同期比2.4%増）
- ◆ この結果、
営業収益は2,072億円（前年同期比12.4%減）
営業費用は2,064億円（前年同期比12.5%減）
営業利益は8億円（前年同期比19.9%増）
となりました。

受託事業

- ◆ 国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設等の事業を受託したことにより、
営業収益は17億円（前年同期比73.2%減）
営業費用は17億円（前年同期比74.2%減）
- ◆ この結果、営業利益は49百万円（前年同期は営業損失74百万円）となりました。

その他の事業

- ◆ 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、道路マネジメント事業等を展開したことにより、
営業収益は54億円（前年同期比20.4%減）
営業費用は45億円（前年同期比21.8%減）
- ◆ この結果、営業利益は8億円（前年同期比11.6%減）となりました。

高速道路事業

単位:億円〔単位未満切捨て〕

区 分		30年3月期	29年3月期	増減
営業収益	料金収入等	1,869	1,739	+129
	道路資産完成高(注)	203	626	▲423
		2,072	2,366	▲294
営業費用	道路資産賃借料	1,419	1,302	+117
	道路資産完成原価(注)	203	626	▲423
	管理費用	441	430	+10
		2,064	2,359	▲295
高速道路事業 営業利益		8	7	+1

主な増減内容

- 営業収益
 - ・通行台数は、前年同期比0.5%増の一日当たり約75.7万台
 - ・料金収入は、前年同期比129億円増の1,861億円
 - ・道路資産完成高は、当期に開通がなかったこと等により、前年同期比423億円減の203億円

- 営業費用
 - ・協定に基づく道路資産賃借料は、前年同期比117億円増の1,419億円
 - ・管理費用は、本線料金所撤去に伴う固定資産除却損の増等により、前年同期比10億円増の441億円

(注)道路資産完成高とは、完成した道路資産の高速道路機構への引渡額をいい、道路資産完成原価とは、当該道路資産の建設に要した費用をいいます。

関連事業

単位: 億円〔単位未満切捨て〕

区 分		30年3月期	29年3月期	増減
受託事業	営業収益	17	65	▲ 47
	営業費用	17	66	▲ 49
	営業利益	0	▲0	+ 1
その他の事業	営業収益	54	67	▲ 13
	営業費用	45	58	▲ 12
	営業利益	8	9	▲ 1
関連事業 営業利益		8	8	+ 0

主な増減内容

●受託事業

大阪府道高速大和川線に係る工事出来高の減等により、営業収益は前年同期比47億円減の17億円、営業費用は前年同期比49億円減の17億円となり、営業利益は49百万円（前年同期は営業損失74百万円）

●その他の事業

発生土再生活用事業の終了（平成28年度末）等により、営業収益は前年同期比13億円減の54億円、営業費用は前年同期比12億円減の45億円となり、営業利益は8億円（前年同期比1億円減）

（注）関連事業の「その他の事業」には、休憩所等事業、駐車場事業、道路マネジメント事業等を含んでおります。

当期連結財務諸表の概要

単位：億円〔単位未満切捨て〕

連結貸借対照表				
区 分	30年3月期	29年3月期	増減	
総資産	2,327	2,200	+127	
流動資産	1,843	1,702	+140	
（うち仕掛道路資産）	1,159	1,014	+144	
固定資産	484	497	▲ 13	
総負債	1,844	1,816	+28	
流動負債	368	362	+5	
固定負債	1,476	1,453	+22	
純資産	483	384	+99	
株主資本	508	450	+57	
資本金	100	100	-	
資本剰余金	100	100	-	
利益剰余金	308	250	+57	
その他の包括利益累計額	▲ 30	▲ 71	+40	
非支配株主持分	5	5	+0	

連結損益計算書				
区 分	30年3月期	29年3月期	増減	
営業収益	2,142	2,496	▲ 354	
営業費用	2,125	2,481	▲ 355	
営業利益	17	15	+1	
営業外収益	2	2	+0	
営業外費用	0	0	+0	
経常利益	19	18	+1	
特別利益	① 66	0	+66	
特別損失	0	1	▲ 1	
税金等調整前当期純利益	85	16	+69	
法人税等	③ 27	② ▲ 15	+43	
非支配株主に帰属する当期純利益	0	1	▲ 0	
親会社株主に帰属する当期純利益	57	30	+26	

- ①平成29年5月の建設関係法人厚生年金基金の代行返上に伴い、厚生年金基金代行返上益66億円を計上しました。
- ②厚生年金基金代行返上益の発生に伴う繰延税金資産の計上による法人税等調整額▲20億円が含まれております。
- ③上記②により計上した繰延税金資産の取崩による法人税等調整額20億円が含まれております。

平成31年3月期 連結業績の見通し

単位:億円〔単位未満切捨て〕

区 分		31年3月期 見通し	30年3月期 実績	増減
営業 収益	高速道路事業	2,981	2,072	+908
	料金収入等	1,888	1,869	+19
	道路資産完成高	1,092	203	+888
	関連事業	84	71	+13
		3,065	2,142	+923
営業 費用	高速道路事業	2,973	2,064	+909
	道路資産賃借料	1,449	1,419	+30
	道路資産完成原価	1,092	203	+888
	管理費用	431	441	▲ 10
関連事業	77	62	+14	
		3,050	2,125	+925
営業 利益	高速道路事業	7	8	▲ 0
	関連事業	7	8	▲ 1
		14	17	▲ 2
経 常 利 益		11	19	▲ 8
特 別 利 益		-	66	▲ 66
税金等調整前当期純利益		10	85	▲ 75
法 人 税 等		3	27	▲ 24
親会社株主に帰属する当期純利益		7	57	▲ 50

連結業績の見通し

親会社株主に帰属する当期純利益は、親会社の利益1億円に連結子会社の利益等5億円を加えた7億円となる見通しです。

なお、連結業績の見通しのうち、親会社の見通し額は国土交通大臣から認可を受けた平成30年度事業計画に基づいています。

(注) 平成31年3月期の業績見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

平成31年3月期 個別業績の見通し

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分		31年3月期 見通し	30年3月期 実績	増減
営業 収益	高速道路事業	2,979	2,065	+914
	料金収入等	1,887	1,861	+26
	道路資産完成高	1,092	203	+888
	関連事業	51	38	+12
		3,030	2,104	+926
営業 費用	高速道路事業	2,975	2,064	+910
	道路資産賃借料	1,449	1,419	+30
	道路資産完成原価	1,092	203	+888
	管理費用	433	441	▲8
	関連事業	49	36	+13
		3,024	2,100	+923
営業 利益	高速道路事業	4	0	+4
	関連事業	1	2	▲0
		6	3	+3
経常利益		2	8	▲5
特別利益		-	67	▲67
税引前当期純利益		2	75	▲73
法人税等		0	22	▲21
当期純利益		1	53	▲52

個別業績の見通し

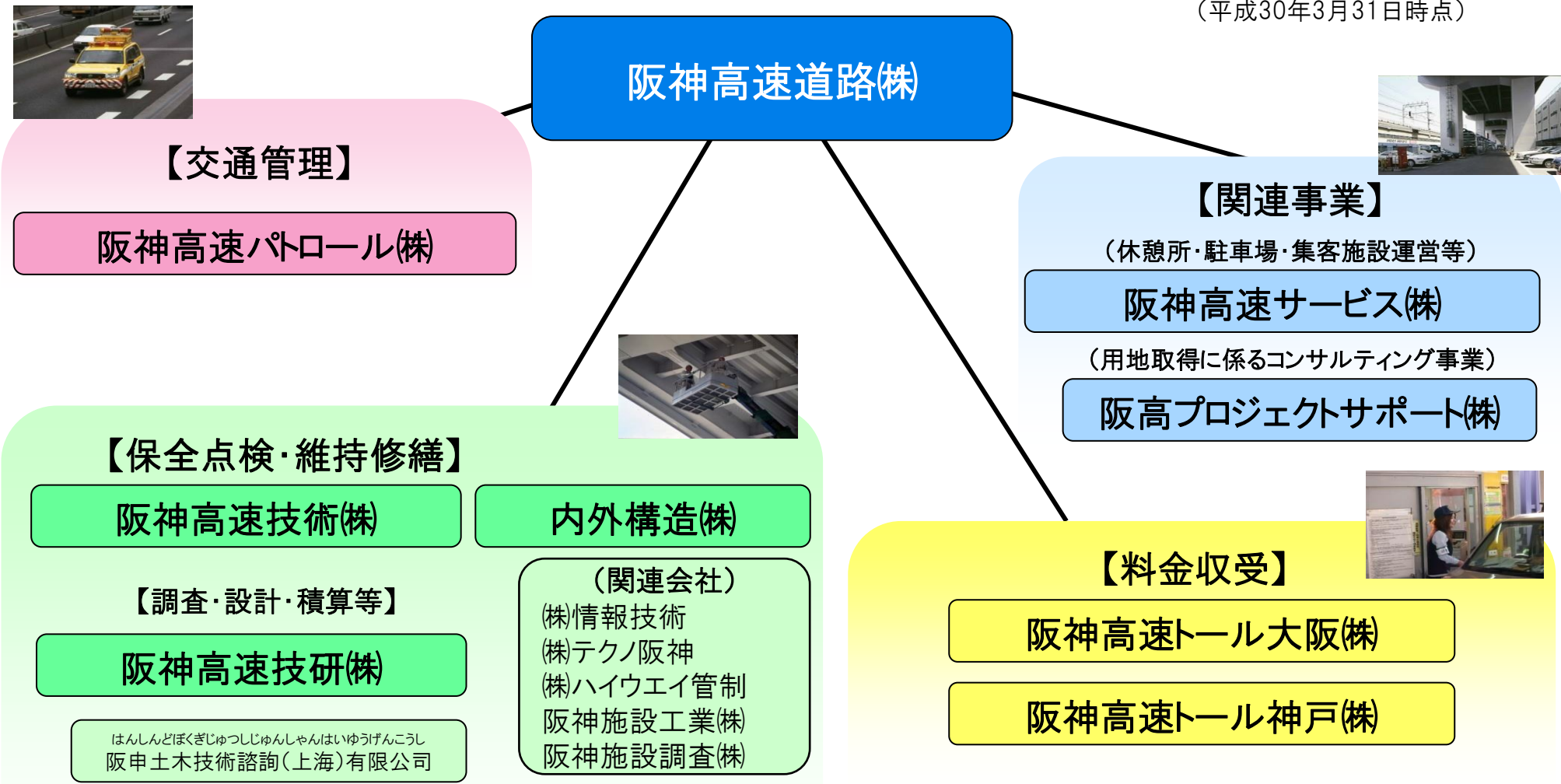
営業収益は、3,030億円
 （前年実績比926億円増）
 営業利益は、6億円
 （前年実績比3億円増）
 当期純利益は、1億円
 （前年実績比52億円減）
 となる見通しです。

なお、見通し額は国土交通大臣から
 認可を受けた平成30年度事業計画に
 基づいています。

（注）平成31年3月期の業績見通しには、
 不確定な要因を含んでおり、将来の
 業績等を保証するものではありません。
 実際の業績等については、様々な要
 因により変化するものであることをご承
 知おき下さい。

グループ経営体制

(平成30年3月31日時点)



主なトピックス

1. 新たな料金体系の導入(近畿圏の新たな高速道路料金)

*これまで整備の経緯の違い等から料金水準や車種区分等が異なっていた近畿圏の高速道路（阪神高速（京都線除く）、第二京阪道路、西名阪道、近畿道、阪和道、京滋バイパス）の料金体系について、対距離制を基本とした利用重視の料金体系を、平成29年6月3日に導入いたしました。

新料金の概要

*対距離制を基本とした料金体系の整理・統一

- ・ 現行の高速自動車国道の大都市近郊区間の水準を基本とする対距離制を導入。
- ・ 車種区分を5車種区分に統一。

*管理主体の統一も含めた継ぎ目のない料金の実現

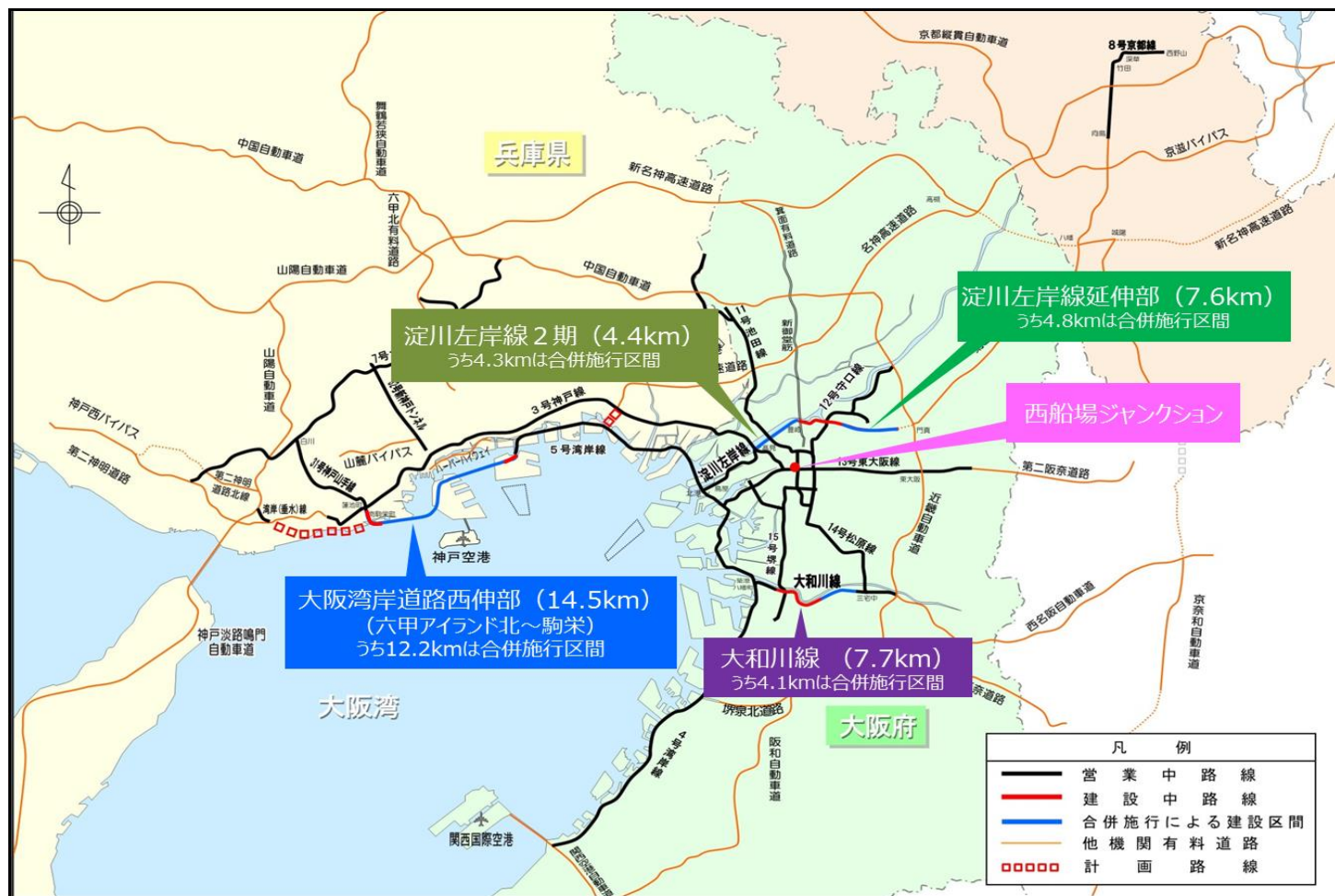
- ・ 京都線（油小路線及び斜久世橋）は平成31年4月にNEXCO西日本へ移管。
- ・ 大阪及び神戸都心部への流入に関して、ETC車について、経路によらず起終点間の最短距離を基本に料金を決定。

主なトピックス

2. ミッシングリンク解消に向けたネットワーク整備等

* ミッシングリンクの解消に向け、大和川線（未供用区間）、西船場ジャンクション（※）をはじめ、淀川左岸線（延伸部、2期）、大阪湾岸道路西伸部の建設事業を推進いたします。

（※）平成30年5月28日、西船場ジャンクション事業のうち阿波座合流区間の増設車線を開放いたしました。



主なトピックス

3. リニューアルプロジェクト(大規模更新・修繕事業)による長寿命化の推進

＊リニューアルプロジェクト（大規模更新・修繕事業）により、構造物の全体的な造り替えや主要構造の全体的な補修を推進いたします。

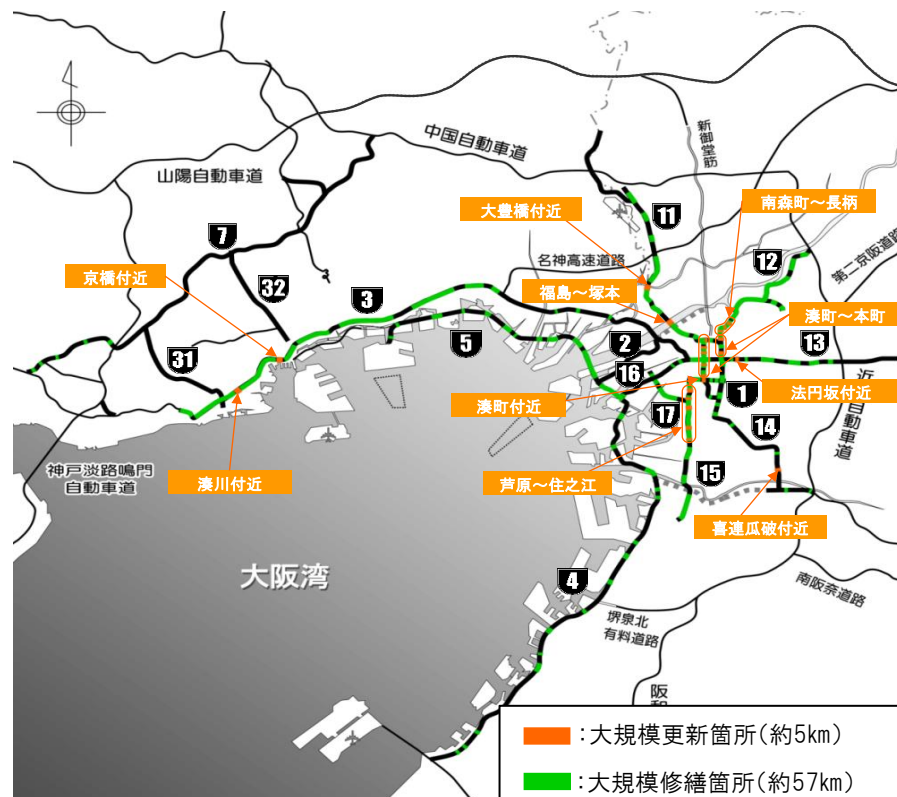
【大規模更新事業】 15号堺線湊町付近は平成30年度の工事発注、3号神戸線湊川付近は工事発注に向けた検討等を実施いたします。

【大規模修繕事業】 平成29年10月、5号湾岸線（尼崎末広～北港JCT）においてリニューアル工事を実施いたしました。

また、引き続き鋼床版やPC桁の修繕のための補強工事を継続実施するとともに、15号堺線等で阪神高速では初めてとなるRC床版取替と高性能床版防水、鋼桁端部腐食対策を新たに実施いたします。

区分	路線	対象箇所	延長	開通年	事業年度
大規模更新	橋梁全体の架替	3号神戸線 京橋付近	0.3km	S41	H33～40
		14号松原線 喜連瓜破付近	0.2km	S55	H32～38
	橋梁の基礎取替	15号堺線 湊町付近	(9基)	S47	H27～36
	橋梁の桁・床版取替	3号神戸線 湊川付近	0.4km	S43	H28～32
		11号池田線 大豊橋付近	0.3km	S42	H37～41
		13号東大阪線 法円坂付近	0.2km	S53	H39～41
	橋梁の床版取替	1号環状線 湊町～本町	0.6km	S39	～40
		11号池田線 福島～塚本	0.3km	S42	H27～41
		12号守口線 南森町～長柄	0.5km	S43	
		15号堺線 芦原～住之江	1.7km	S45	
小計	5km	-	-		
大規模修繕	4号湾岸線、11号池田線ほか		57km	-	H27～41
合計			62km	-	-

リニューアルプロジェクト（大規模更新・修繕事業）



主なトピックス

4. 関連事業の展開

- * 阪神高速グループにおいてこれまで培ってきた技術・ノウハウを活用し、周辺の自動車専用道路等の一体的管理や、構造物点検、補修業務を受託しております。
- * 高架下等の道路空間や保有する資産を有効に活用し、社会のニーズに応えるため、海外事業を含む技術・補償コンサルティング事業、駐車場事業、保有資産有効活用事業等を積極的に展開しております。

周辺の自動車専用道路等の一体的管理受託

- ・ 大阪港咲洲トンネル、夢咲トンネル（いずれも大阪市）、第二阪奈有料道路（大阪府道路公社、奈良県道路公社）の管理運営を受託。



大阪港咲洲・夢咲トンネル



第二阪奈有料道路

高速道路の維持管理等の技術・ノウハウを活かした事業展開

- ・ 兵庫県西宮土木事務所より、一般県道芦屋鳴尾浜線の道路3橋について、詳細点検等の業務を受託。
- ・ 道路や鉄道など公共インフラの用地取得支援業務を地方公共団体等から受託。

道路空間や保有する資産の有効活用

- ・ 駐車場事業：高架下等の約300箇所、月極め駐車場やコインパーキングを展開。
- ・ 保有資産有効活用事業：所有地の有効活用を図ることを目的に、賃貸住宅事業（豊中市、西宮市）や事業定期借地等を展開。
- ・ 平成29年には、大阪市西区において新たに駐車場と空中店舗を組み合わせた事業を開始。

海外事業の展開

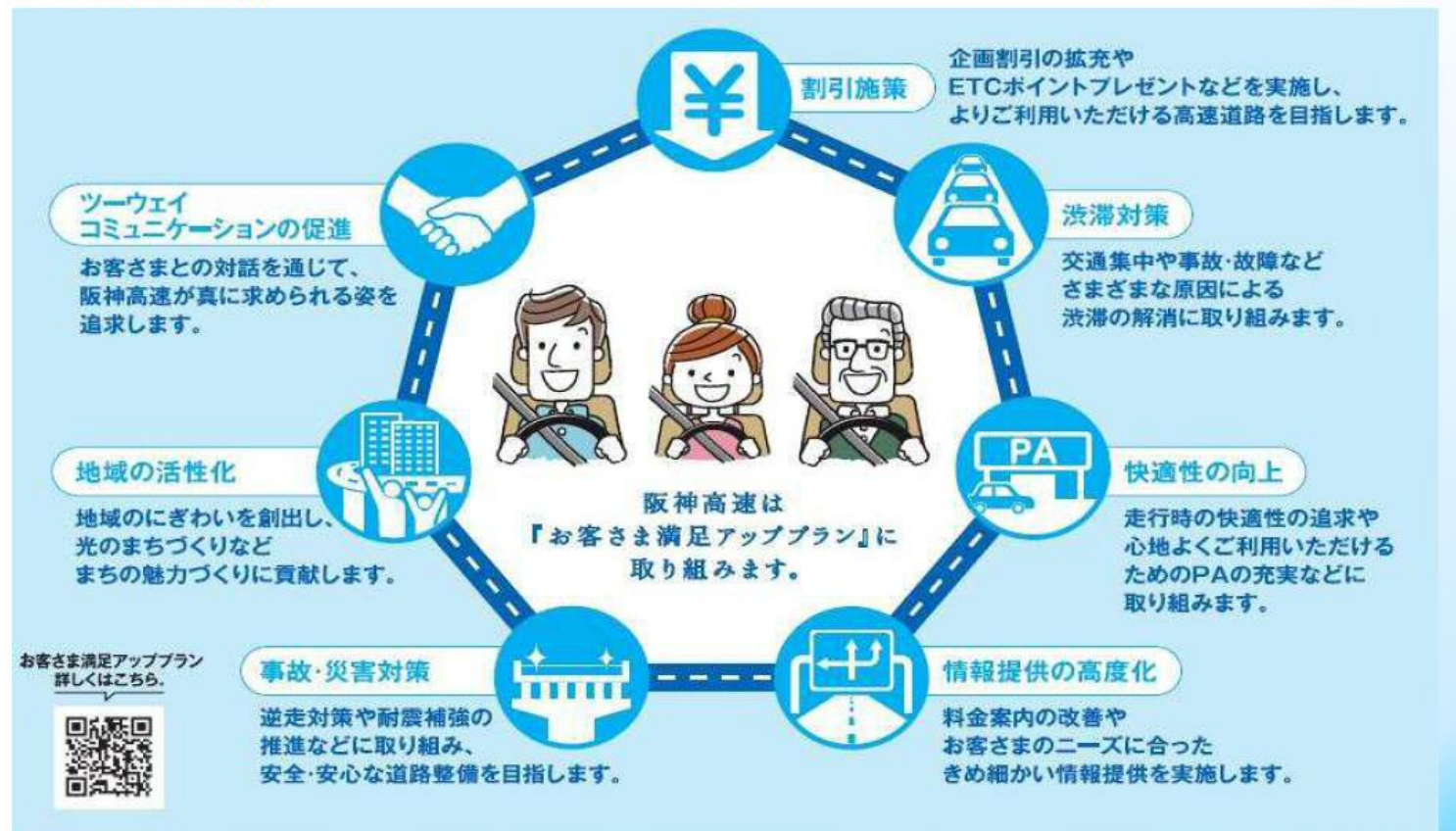
- ・ ケニア等におけるJICA技術協力プロジェクトにコンサルタントチームの一員として参画。
- ・ 日本においてケニア、カンボジアの技術者に対して道路維持管理等に関する研修を実施。

主なトピックス

5. お客さま満足アッププランの策定、推進


- *お客さまにもっと“安全・安心・快適”を実感し、ご満足いただくための様々な施策の取り組みをまとめた「お客さま満足アッププラン」を平成29年4月に策定、平成30年4月には、これを進化させた「お客さま満足アッププラン2018」に更新し、計画的に取り組みを実行しています。
- *今後も、『お客さま満足アッププラン』を継続的に実施することで、ますますのお客さま満足の向上に努めてまいります。

7つの項目で構成



◆本資料には将来の予測や見通しに関する記述が含まれておりますが、こうした記述は将来の業績等を保証するものではありません。将来の業績等は経営環境の変化などにより、目標と異なる可能性があることにご留意下さい。

【お問い合わせ】

 阪神高速道路株式会社 経理部財務課

〒541-0056 大阪府中央区久太郎町4丁目1番3号

TEL: 06-6252-8121(代)

FAX: 06-6251-6930

URL: <https://www.hanshin-exp.co.jp>